

政策番号	17	政策分野	保健衛生・医療
------	----	------	---------

基本方針	すべての市民が健やかにくらするように、市民ひとりひとりが主体的に心身の健康づくりに取り組めるような環境を整えるとともに、健康意識の向上を図る。また、市民の健康を守り支えるため、適切な保健医療サービスが受けられる体制を構築するとともに、健康づくり活動の育成を促す生活環境の整備を行う。さらに感染症等の市民の健康を脅かす危機が生じた際に迅速・的確に対応できる体制を確立する。
------	---

担当局	保健福祉局	共管局	
-----	-------	-----	--

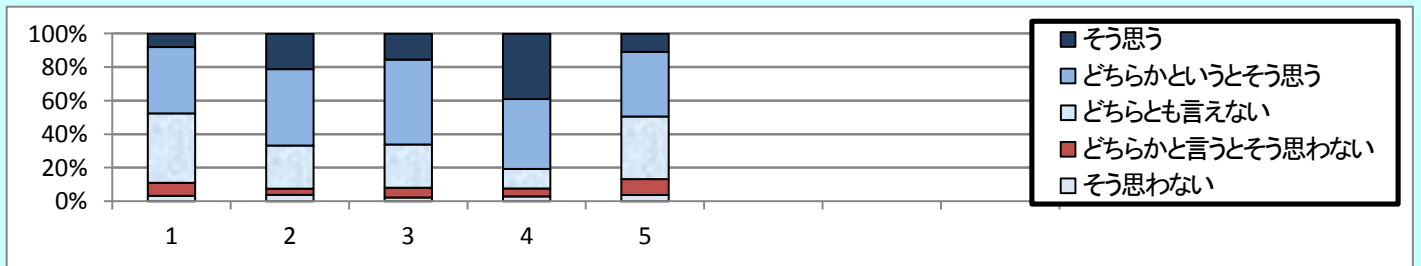
政策の評価

1 客観指標評価

指標名		23年度 評価値	32年度 目標値	23 年度	24 年度	25年度評価				
						前回値	最新値	目標値	達成度	評価
1	男性の健康寿命(歳)	78.5	80.3	a	c	78.5	78.6	80.3	97.8%	b
2	女性の健康寿命(歳)	82.9	86.7	a	c	82.9	82.6	86.7	95.2%	e
3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
客観指標総合評価				a	c					d

2-1 市民生活実感評価

番号	設問	評価		
		23年度	24年度	25年度
1	正しい情報を基に、健康づくりに取り組むひとが増えている。	b	b	b
2	利用しやすく頼れる医療や検診の機関がある。	b	b	b
3	安心して食べられる食品が手に入るなど、衛生的な生活環境が整っている。	b	b	b
4	公共の場では禁煙が進んでいる。	a	a	a
5	感染症や食中毒等の健康危機に対し、安全と安心が確保されている。	b	b	b
6	-	-	-	-
7	-	-	-	-
8	-	-	-	-
市民生活実感調査総合評価		a	a	a



2-2 政策の重要度(27政策における市民の重要度)

23年度		24年度		25年度	
順位	%	順位	%	順位	%
6	26.8%	7	24.0%	5	88.6%

3 総合評価

C	政策の目的がそこそこ達成されている		
【客観指標】・平成24年9月に、国における「平成24年度厚生労働科学研究費補助金(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業)による健康寿命における将来予測と生活習慣病対策の費用対効果に関する研究班)」により健康寿命の算定方法の指針が策定された。 ・健康寿命について、男性については、前年度と比較して改善は進んでいる一方で、女性については、前年度と比較して0.3歳の悪化となった。男女共に目標値には届かず、b及びe評価となった。これまでの本市の取組も一定効果を挙げているものの、引き続き、取組を推進していく必要がある。		24年度	B
【市民の実感】・市民の実感については、全体として昨年度と同様の評価となった。 ・分煙や受動喫煙の防止が徹底されつつあることなどから、公共の場における禁煙の進展が高く評価されているほか、その他の設問に対してもかなり肯定的に評価されている。		23年度	A
【総括】・市民の実感が客観指標を上回る結果となった。 ・市民の実感としては全体としてかなり肯定的に評価されているものの、客観指標については、全体的に悪化することとなったため、健康寿命の改善に向けた取組が必要である。 ・こうしたことを総合的に勘案し、この政策の目的は、そこそこ達成されていると評価する。			

今後の方向性の検討

<この政策を構成する施策とその総合評価>

施策番号	施策名	評価結果			参照ページ
		23	24	25	
1701	市民の健康づくり活動の推進	B	B	B	183
1702	保健医療サービスの充実	B	B	B	187
1703	食や生活環境の安全・安心の確保	A	B	B	189
1704	健康危機に対する安全・安心の確保	B	B	B	191

<今後の方向性>

・いきいきと健やかな「笑顔・健康都市」京都の実現に向け、これまでから行動指針を策定して取組を進めてきた「栄養・食生活」、「喫煙」、「歯の健康」などの分野に加え、「身体活動・運動」、「飲酒」分野について新たに行動指針を策定し、「がん」や「骨粗しょう症」の分野について健康実施計画等の本市の取組をまとめた「京都市民健康づくりプラン(2次)」(平成25年3月策定)の普及啓発を推進するとともに、引き続き、これまでの本市の取組をより一層推進していく。また、国における受動喫煙防止対策の充実の動きを踏まえ、「喫煙」分野における取組のさらなる充実を図る。

政策名		17	保健衛生・医療			
指標名		男性の健康寿命（歳）				
担当部室		保健衛生推進室		連絡先	2 2 2－3 4 1 1	
1 指標の説明						
平均的な京都市民（男性）が、介護を必要とせず、健康で自立した生活を送ることができる期間						
2 指標の意味			3 算出方法・出典等			
京都市民が享受する保健衛生・医療の水準を示す指標			算出方法：「平均寿命」－「日常生活動作が自立していない期間」 ※平成24年度厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）による健康寿命における将来予測と生活習慣病対策の費用対効果に関する研究班）			
4 数値						
10年後の（平成32年度）目標値		平成23年度評価値	平成32年度目標値	根拠		
		78.5	80.3	京都市民健康づくりプラン（第2次）		
	前回数値 23年度	最新数値 24年度	推移	単年度目標値		
	数値	78.5		78.6	0.1歳改善	80.3
	数値	78.5	78.6	0.1歳改善	80.3	
	達成度	10年間の目標達成のために当該年度達成すべき数値（各年度0.18歳改善）			97.8%	
	全国順位	中長期目標			備考	
		数値	目標年次	達成度		
	数値	－	34年度	－		
		健康寿命を平均寿命に近づける（京都市民健康づくりプラン（第2次））			H22健康寿命 78.5歳 H22平均寿命 80.3歳 国において、健康寿命の算定方法の指針が策定されたことに伴い、過去の数値及び目標値等について、新たな基準で再計算し、適って数値を修正している。	
5 評価基準			6 基準説明		7 評価結果	
最新数値が前年度実績と比較して a：0.2歳以上改善 b：0.1歳改善 c：変わらず d：-0.1歳以上悪化 e：-0.2歳以上悪化			当該指標については、市民の健康づくりの取組状況や、市内の保健衛生・医療水準等の中長期的な観点から評価する必要があるため、単年度目標値以上をaとし、以下0.1歳刻みで基準を設定した。			
					23 24 25	
					a c b	

指標名		女性の健康寿命（歳）						
担当部室		保健衛生推進室		連絡先		2 2 2－3 4 1 1		
1 指標の説明								
平均的な京都市民（女性）が、介護を必要とせず、健康で自立した生活を送ることができる期間								
2 指標の意味				3 算出方法・出典等				
京都市民が享受する保健衛生・医療の水準を示す指標				算出方法：「平均寿命」－「日常生活動作が自立していない期間」 ※平成24年度厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）による健康寿命における将来予測と生活習慣病対策の費用対効果に関する研究班）				
4 数値								
10年後の（平成32年度）目標値		平成23年度評価値	平成32年度目標値	根拠				
		82.9	86.7	京都市民健康づくりプラン（第2次）				
	前回数値	最新数値	推移	単年度目標値				
	23年度	24年度		数値	根拠		達成度	
数値	82.9	82.6	0.3歳悪化	86.7	10年間の目標達成のために当該年度達成すべき数値（各年度0.38歳改善）		95.2%	
	全国順位	中長期目標			備考	H22健康寿命 82.9歳 H22平均寿命 86.7歳 国において、健康寿命の算定方法の指針が策定されたことに伴い、過去の数値及び目標値等について、新たな基準で再計算し、適って数値を修正している。		
		数値	目標年次	達成度				根拠
数値		－	34年度	－	健康寿命を平均寿命に近づける（京都市民健康づくりプラン（第2次））			
5 評価基準				6 基準説明		7 評価結果		
最新数値が前年度実績と比較して a：0.4歳以上改善 b：0.2～0.4歳改善 c：0～0.2歳改善 d：変わらず e：悪化				当該指標については、市民の健康づくりの取組状況や、市内の保健衛生・医療水準等の中長期的な観点から評価する必要があるため、単年度目標値以上をaとし、以下0.2歳刻みで基準を設定した。				
						23	24	25
						a	c	e